

堂谷津の里 自然だより

2024年 2月



暖かな日、寒い日を繰り返しながら春へ向かっています。ようやくニホンアカガエルが山から下りてきて、産卵が始まりました。毎年のことながら心待ちにしています。鳥たちの鳴き声が谷津に響き渡り、道端に咲く草花の愛らしい姿に気持ちがほっこりします。「・・・春遠からじ」ですね。

アカガエルの卵塊みっけ!

堂谷津の里 てくてく歩き ♪♪春みっけ!



ニホンアカガエル

卵塊

メダカも元気に泳いでいます



クヌギカメムシ卵



ナナホシテントウ



キタテハ

成虫で冬を越すチョウ



ナズナ



ホトケノザ



オオイヌノフグリ

野草園で咲いています

蕾が膨らむシュンラン

春一番に咲くスミレ
アオイスミレ



葉が徳川家の家紋「フタバアオイ」に似る



太くてずんぐり

ウサギの耳のよう

カギ形に曲がる



下草刈りを終え 春を待つ里山

<季節メモ> 冬があるから春が来る

多くの生き物にとって、冬は乗り越えるための大切な季節。地面に落ちた種子や木々の芽は寒い冬を経験し、これを春を迎える信号に利用しているのです。つまり、低温を休眠から目覚めるシグナルとし、その後の発芽や芽吹きに適した温度になると芽生えるのです。植物の多くがこのような仕組みを持ち、冬は寒いだけでなく、春を待つ大事な季節となっています。昆虫だって、土の中や落ち葉の中、樹皮の中など、寒さをしのげる場所を探して成虫のまま、幼虫で、卵で寒い冬を乗り越える様々な工夫をしています。一番早く産卵するニホンアカガエルも水辺へ下りてきました。自然と向き合う生き物たちの本能に驚くばかりです。

写真・編集：晝間